

令和6年度 感動と笑顔あふれる学校づくり推進事業 報告書

学校番号 208

学校名 金沢市立 鳴和 中学校

校長名 森中 静恵

担当者名 荒川 千津

1 研究の重点と具体的な取組

- ・登校時に生徒自身が1日の学習計画を考え、白板に予定を記入することで、自己決定の機会を持たせる。
- ・終礼時に今日一日の中で「頑張ったこと」を振り返らせ、教職員が生徒の活動を価値づける声かけを行うことで自己肯定感や自己有用感を育む。
- ・1人1台学習用端末を活用した月二回以上の調査(「心と体の調査」「隔週アンケート」等)により、生徒一人ひとりの状況把握に努め、毎週開催の「相談部会」を通して情報共有し、不登校未然防止のための組織的対応を行う。
- ・校内教育支援センターでは、オンライン授業視聴と「ドリルパーク」での個別学習を選択させるなど、1人1台端末を活用した学習支援を行う。
- ・校内教育支援センターでは、生徒が協力して、主にセンター内での掲示物等を作成し、飾り付けを行うことで温かな環境づくりを進める。
- ・生徒や保護者が1人で悩みを抱え込まないように、スクールカウンセラーや関係機関と連携して組織的に対応する。

2 取組の検証

- ・教員アンケート(前後期平均)では「不登校・不適應に対する対応、支援が迅速かつ組織的に行われている」での肯定的回答が100%(A:60%、B:40%)であった。
- ・生徒アンケート(前後期平均)では「先生は、アンケート等を通して、困りごとやいじめをなくす取組をしている。」での肯定的回答が97%(A:70%、B:26%)であった。
- ・生徒アンケート(前後期平均)では「努力を認めたり思いに耳を傾けたりして、応援してくれる先生がいる。」での肯定的回答が91%(A:51%、B:40%)であった。
- ・保護者アンケート(前後期平均)では「学校には、生徒の努力を認めたり思いに耳を傾けたりして、応援してくれる先生がいる。」での肯定的回答が72%(A:30%、B:42%)であった。
- ・今年度の校内教育支援センター活用生徒は16名おり、概ね継続的に利用している。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・今年度の校内教育支援センター活用生徒数は16名だが、支援センターから教室復帰した生徒が1名、支援センターをベースに時々教室等の授業に参加する生徒が5名程度いる。また、ほとんどの生徒が1人1台端末等を利用したオンライン授業視聴を行うなど、各自で計画を考えながら、自分のペースで学習を進めている。
- ・支援センターを活用している生徒は完全不登校となっておらず、頻度に差はあるが概ね継続的に登校している。

〈課題〉

- ・支援センターを利用する生徒の中にはチャイムが鳴っても支援員や他の生徒と喋ろうとしている生徒もおり、楽しく温かな雰囲気と学習しやすい静かな雰囲気の両立ができるよう、自分たちでしっかりと心得を守って過ごせるように指導することが課題である。
- ・今年度の検証方法では、実際の取組成果を図るには不十分な面が見られるため、来年度に向けて検証方法の検討を行う必要がある。